

学んでいる時間数を問う設問での問い方の検討結果

それぞれの時間数を「日あたり」で回答したケースと「週あたり」で回答したケースの回答率%

	授業外学修時間		授業外学習時間	
	日あたり	週あたり	日あたり	週あたり
2016日先 A大	62.67	37.33	51.75	48.25
2017週先 A大	41.78	58.22	44.10	55.90
2016日先 B大	58.20	41.80	53.38	46.62
2017週先 B大	45.28	54.72	48.03	51.97
2016日先 C大	52.31	47.69	53.17	46.83
2017週先 C大	45.34	54.66	48.00	52.00
2016日先 D大	57.18	42.82	55.86	44.14
2017週先 D大	49.14	50.86	50.92	49.08
2016日先 E大	56.34	43.66	52.64	47.36
2017週先 E大	46.12	53.88	48.35	51.65
2016日先 F大	62.80	37.20	54.95	45.05
2017週先 F大	52.70	47.30	50.11	49.89

2016年度と2017年度では「日あたり」と「週あたり」の回答選択肢の提示順序を前後に変えた。「日先」は日あたりを先、「週先」は週あたりを先に配置し、どちらかを選択するよう指示した。

6大学2年間12ケースの観察をすると、3ケース以外は、選択肢配列位値の影響が明確に出ており、日あたり、週あたりどちらかの選択を求めると、先に提示されている選択肢のほうで回答する傾向が認められた。ただし、その回答傾向は1ケース以外において回答率で10%以内に留まる差異であった。つまり、先に提示されている選択肢を回答しがちな傾向は認められたものの、後先の提示順を越えて好みの選択肢（日あたりか週あたりか）を選択する割合は半々に近い。

日あたりを先に配置することでのそれへの回答率と、週あたりを先に配置することでのそれとを比較すると、学修か学習かにかかわらず、2例を除いて日あたりを先に配置することによるそれへの回答率のほうが高かった。このことから日あたりの方が週あたりよりも回答傾向がやや高いとみることできる。だが、その相違は上記のとおり明白に一貫性のあるものではなかった。よってこの2設問については2018年度調査でも引き続き、日あたり・週あたりの両方を用意して回答者の選択に任せることと、やや日あたりのほうが選好度合いが高いことから日あたりを先におくことにする。

また、アルバイトなど有給の仕事をしている時間についてはつぎのとおりであった。12ケース中11ケースで週あたりの回答率が日あたりを上回り、5ケースにおいては65%～75%であった。この結果から、この設問については「週あたり」で尋ねることの妥当性が高いと判断した。

	アルバイト時間 回答率%	
	日あたり	週あたり
2016日先 A大	44.96	55.04
2017週先 A大	24.70	75.30
2016日先 B大	44.32	55.68
2017週先 B大	25.22	74.78
2016日先 C大	48.04	51.96
2017週先 C大	33.46	66.54
2016日先 D大	55.23	44.77
2017週先 D大	45.78	54.22
2016日先 E大	46.53	53.47
2017週先 E大	32.98	67.02
2016日先 F大	46.72	53.28
2017週先 F大	31.24	68.76
平均	39.93	60.07